

皆さんは、夏といえば何の匂いを思い出しますか。「けんせつ」2216号について、通信員の仲間の「思い出の夏の匂い」を掲載します。

# 夜な夜な母の世話に

## 持病と成長痛でかけた苦勞

【多摩稲城・書記・佐々木陽介通信員】夕立が上がった

後の、あの何とも言えないほこりっぽい匂いを感じた時、幼少期に母に多くの迷惑をかけたことを思い出します。

私は小さいころから大人しく真面目、反抗期もなく親から手がかからない子だったと聞かされています。しかし、私の記憶の中には夏になると

毎年苦勞をかけていたことしか思い出せないのです。

まず一つは、持病であった小児ぜんそくが、夏に遊びに行っていた祖母宅にひそむ夕立のせいで発症。眠れない私に新鮮な空気を吸わせるため、母が毎晩おんぶをして連れ出してくれていたこと。もう一つは、なぜか成長痛が夏に激しくなり、夜な夜な足を

もんで痛みを和らげてもらっていたこと。どちらも夏の夜に起きていたことから、夕立終わりの匂いとともに印象に残っています。

そして、38歳となった現在はさすがに迷惑をかけることはないのですが、おそらく「いつまで独身でいるつもりだ」という心配をかけているのではないかと思っています。



佐々木さん

# 思い出の夏の匂い

## 第2弾

【新宿・内装・山口真彦通信員】春も終わりに近づき、気温上昇が著しい。日差しが照りつけ、緑豊かな公園などでは、むせ返るような青葉の香りが立ち込めてくる。そんな匂いを嗅ぐと、ふと思いつくことがある。

# 蘇る緑の色濃い風景

## 少年時代の貴重な夏の記憶

へ遊びに行くというのを心待ちにしていた。父の生まれ故郷は、70年代後半にあって、さすがに電気・ガス・水道等のインフラは整備済みではあったが、森や山林、池や川など手つかずの自然があり、日本の原風景が残っているような印象を受ける場所だった。当時、私の住んでいたところは開発で、あらゆる景色が様変わりしつつあったので、実家には体験したい環境で過ごす夏の時間が楽しみで仕方なかったのだ。

今から遡ること数十年前。幼かった私の夏の恒例行事として、夏休み中、父方の生家



山口さん

# 心臓バクバクの体験

## 宮古島でスイカに頬ずり

【三鷹武蔵野・主婦・杉浦由美子通信員】夏と言えば沖縄。水泳を始めて今年で23年目。仲間とダイビングに行くこと18回、まだまだ続きそうです。



杉浦さん

宮古島を思い出します。パインアップルは土地柄、珍しいものはありませんが、「スイカ割り」を楽しんだ時のこと。自分の番になったのですが、なかなか命中せず時間ばかり経ち心臓はバクバク。やつのことまで真つ二つに「やっつた」。安堵感と同時に思わずスイカに頬ずりを。この時、何と甘い香りを感じたことか。澄んだ空気とともにこの香りが顔の周りを包んでくれたのです。よだれが出ました。涙も。

若かったので感情豊かであったでしょう。焦りと一緒に「スイカの甘い香り」で味わった安堵感を、今でも懐かしく思い出します。

# 得意だった魚捕り

## 仲間に食べさせ親分に



原沢さん

【豊島・大工・原沢修通信員】今から54年前、私が小学生の夏の頃、海のない所なので、川へ出かけるのが主流でした。毎日のように私は、海パン姿で川に泳ぎに行っていました。その頃は私もやんちゃで、泳いだり魚捕りをやったりして一日遊んでいました。

【台東・塗装・遠藤秀明通信員】毎年、隅田川の花火大会の時は、組合の仲間を誘って友達のマッシュアップの屋上に、コンビニで酒つまみを用意したつまみは水浸し、酒のコップも雨で溢れ、仲間はピシヨピシヨになり、屋上から逃げるように退散したのを覚えています。

# 屋上での花火見物

## 激しい夕立でパニック



遠藤さん

それ以外に大好きな香りがある。サーフボードに塗るワックス。セックスワックスのバナナが大好きだ。ワックスがウーンするたびに、食べてしまいたくなる甘い香り。セロファンを剥いた時にむせかえるほどの甘い香り。ウーン頬ずりしたくなる。嫌いな人は嫌いなようだが、僕は大好きだ。好きだぜ、夏の匂い。

【台東・塗装・遠藤秀明通信員】毎年、隅田川の花火大会の時は、組合の仲間を誘って友達のマッシュアップの屋上に、コンビニで酒つまみを用意したつまみは水浸し、酒のコップも雨で溢れ、仲間はピシヨピシヨになり、屋上から逃げるように退散したのを覚えています。

これ以来、花火大会当日の天気予報には十分注意して、人数分のカップと傘を用意するようにしました。あの日の花火の煙の匂いは、特別な思い出となりました。

【新宿・電気通信・関口弘通信員】私の母親の実家は栃木県那須で、福島県との県境にあります。今はあまり行く機会ありませんが、子どもの頃は夏休みによく行きま



関口さん

# 初めて見た蛙の卵

## すじこと間違え持ち帰り

【江東・ハウスクリーニング・油屋正孝通信員】夏だ、大好きな夏の到来だ。春夏秋冬、それぞれの季節にそれぞれの匂いがあり、どの季節にも好きな匂いがある。中でも好きな匂い、それは夏に集中している。ぬか漬けをかき回している時の独特な香

# ウーンたまらない

## 包まれていた夏の香り

【西多摩・瓦・高野初雄通信員】ここ数年の夏の暑さは尋常でない。このところ感じるような暖かくなった身体は、50歳という年齢では、50歳と気温にたまたま目覚めるといのがピッタリだと思



油屋さん

# 乾ききった身体潤す

## 無味無臭のはずの水道水

【西多摩・瓦・高野初雄通信員】ここ数年の夏の暑さは尋常でない。このところ感じるような暖かくなった身体は、50歳という年齢では、50歳と気温にたまたま目覚めるといのがピッタリだと思



高野さん

【西多摩・瓦・高野初雄通信員】ここ数年の夏の暑さは尋常でない。このところ感じるような暖かくなった身体は、50歳という年齢では、50歳と気温にたまたま目覚めるといのがピッタリだと思